

**製品名: カスパーゼ-6 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07978**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CASP6
別名	CASP6; MCH2; Caspase-6; CASP-6; Apoptotic protease Mch-2
遺伝子 ID	839.0
SwissProt ID	P55212
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ 6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 223-272

**背景**

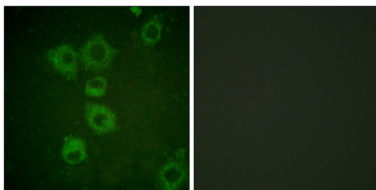
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーに属する酵素をコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性化プロ酵素として存在

し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化することで活性酵素を形成します。このタンパク質はカスパーゼ7、8、および10によって処理され、カスパーゼ活性化カスケードの下流酵素として機能すると考えられています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2015年10月],触媒活性: P1位のAspを厳密に必要とし、Val-Glu-His-Asp-|の優先切断配列を有する。 ,酵素制御: 活性化はSer-257のリン酸化によって抑制される。 ,機能: アポトーシス遂行に参与するカスパーゼの活性化カスケードに参与する。 in vitroにおいて、ポリ(ADP-リボース)ポリメラーゼおよびラミンを切断する。 過剰発現はプログラム細胞死を促進する。 ,PTM:カスパーゼ3、カスパーゼ8、または10による切断により、2つの活性サブユニットが生成される。 ,類似性:ペプチダーゼC14Aファミリーに属する。 ,サブユニット:18 kDa (p18) サブユニットと11 kDa (p11) サブユニットからなる、2つの逆平行に配置されたヘテロダイマーからなるヘテロテトラマー。 ,

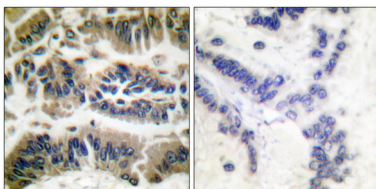
## 研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;

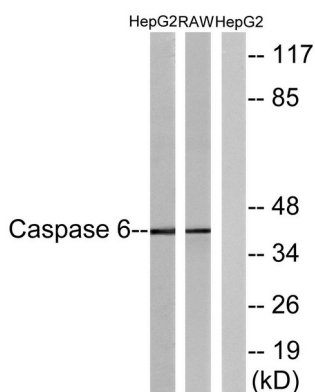
## 画像データ



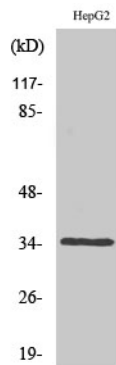
カスパーゼ6抗体を用いたHUVEC細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



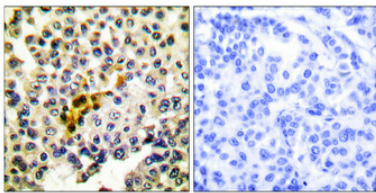
パラフィン包埋ヒト乳癌組織のカスパーゼ6抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



HepG2細胞およびRAW264.7細胞のライセートをカスパーゼ6抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈のカスパーゼ 6 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。